

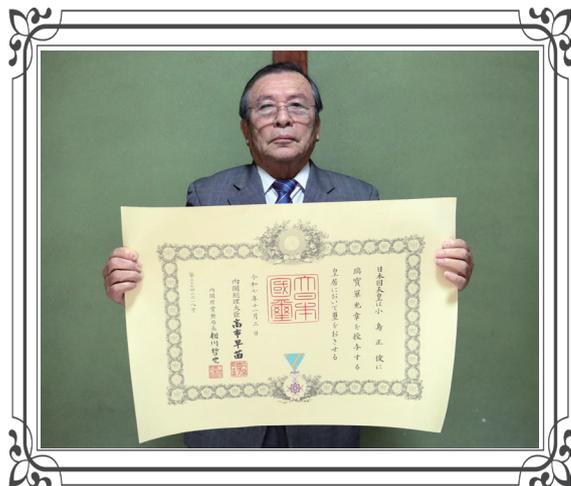
町内で叙勲を受章された皆さまをご紹介します

昭和35年に一本松村役場へ入庁し、各部署での職務に精励した大本邦男さん。昭和47年に建設課長の職に就いて以降、厚生課長や総務課長などを歴任されました。昭和63年に一本松町教育委員会教育長に任命された大本さんは、個性豊かな学校教育の推進に注力し、平成4年からは一本松町収入役として10年間にわたり健全な財政運営に努めました。また、平成14年からの2年間は一本松町助役として、町村合併などの最重要課題に対して積極的かつ前向きな姿勢で町政をけん引しました。

「入庁当時から絶対誰にも負けたくないという気持ちで、仕事には一切の妥協を許さなかった」と当時を振り返る大本さん。「自分が仕事一筋の姿勢を貫くことができたのは、家庭を守り支えてくれた妻や、周囲の方々のおかげ」と笑顔を見せました。



高齢者叙勲 瑞宝双光章
大本 邦男さん



危険業務従事者叙勲 瑞宝双光章
小島 正俊さん

民間企業での勤務を経て、30歳の時に南宇和消防事務組合に入庁した小島正俊さん。積極的な姿勢で救急業務に取り組んだ小島さんは、救急自動車および救急資器材の整備など救急体制の充実に貢献しました。また、消防活動の最前線で陣頭指揮にあたり、遠隔地や広範囲な消火活動においても強固な消防活動体制の確立につなげるため、地元消防団員との円滑な連携を図るなど、町民の生命・財産の保護を第一に職務を全うしました。

平成6年から消防司令になり、平成13年には消防課長として、消防長や署長の補佐として職員の育成にも尽力した小島さん。「消防の組織力と仲間からのサポート、家族からの支えのおかげで消防職員としての責務を果たすことができたと感じている」と、感謝の思いを述べました。

御荘長月出身で30年以上消防団で活動し、地域の安全に尽力してきた小松一好さん。出動要請がかかれば、昼夜関係なく現場に駆け付け、迅速な消火に努めました。「今となっては笑い話だが、熱心過ぎたのか、娘に父親の職業は消防士だと思われていた。地域を守る消防団員として当たり前のことをしてきただけ。受章の知らせを聞いて、なかなかもらえるものでないから、やはりもらえると嬉しい」と話します。定年後は趣味のラン栽培の傍ら、営農センターで苗の配達や農協が所有する農園で新規就農者の支援をしています。「就農を目指す若者たちを見ていると、みんなやる気を持っていて応援したくなる。今後も体が動くうちは地域のためにサポートを続けたい」と熱く語りました。



秋の叙勲 瑞宝単光章
小松 一好さん

第22回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」 柏小学校の作品が見事入選!

一般社団法人日本損害保険協会などが開催した第22回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」において、須ノ川地区の『早めのひなんよびかけ隊』が未来へのまちづくり賞(朝日新聞社賞)に、柏地区の『柏っ子18』が佳作に選ばれ、2月16日(月)柏小学校で表彰式が行われました。

表彰式では、日本損害保険協会中国・四国支部愛媛損保会会長から児童らに賞状が手渡されました。『早めのひなんよびかけ隊』のマップは、観光客の多い地域性から英語表記を加えるなど、地域住民だけでなく、地域外の人へも配慮しているところが評価されました。児童らは「3年間防災学習に取り組んできたことが評価されて嬉しい。学んだことを地域に広げ、より良い町となるように実践を続けていきたい」と話しました。



「土砂災害防止に関する絵画・作文」町内から3人が入賞! 柏小6年 木口凱喜さんの作文は中央審査で最優秀賞を受賞

作品の制作を通して土砂災害防止についての理解や関心を深めることを目的に、次世代を担う小・中学生を対象として開催された令和7年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」コンクール。柏小6年の木口凱喜さんの作文が愛媛県知事賞、また城辺中3年の砂田琉成さんの作文と柏小5年の宇都宮未妃さんの絵画が愛媛県砂防ボランティア協会会長賞に輝きました。

愛媛県知事賞を受賞した木口さんの作文は中央審査に推薦され、最優秀賞にあたる国土交通大臣賞を受賞する功績を納め、3月2日(月)に中村維伯町長から表彰状を受け取りました。

※学年は令和8年3月時点



柏小学校 6年 木口 凱喜さん



防災学習の成果を詰め込んだ今回の作文が、いつ起こるかわからない自然災害への備えについて考えるきっかけになってほしい。



土砂災害が危険ということをも多くの人に知ってもらい、早めの避難を心掛けてほしいという願いを込めて描くことができた。



城辺中学校 3年 砂田 琉成さん

能登半島地震をきっかけに「あたりまえ」が怖くなつた。かけがえのない命、かけがえのない日常を守るため災害予防を心掛けた。



柏小学校 5年 宇都宮 未妃さん

愛南町自主事業

早見和真氏講演会「愛南町を世界に広めるための僕なりの戦い」



愛媛
CATV
動画



1月31日(土)、御荘文化センターホールで早見和真氏講演会が行われました。テレビドラマ化された「笑うマトリョーシカ」、「ザ・ロイヤルファミリー」の著者である早見氏から自身の作品や愛南町への思いが熱く語られ、来場者は熱心に耳を傾けました。また、講演の途中には「悲しきデブ猫ちゃん」でおなじみの「マル」と一緒に「なーしくん」も登場し、会場を大いに盛り上げました。



後半には、南宇和高校の生徒との対談が行われ、生徒の思いに対して、作家の視点からユーモアを交えつつも元野球人として直球で応えていました。

最後はサイン会を行い、来場者は普段なかなか触れ合うことのできない早見氏との交流を楽しみました。

1/24 愛南町消防団広報隊から活動報告

平瀨地区で津波災害時を想定した夜間車両避難訓練を実施



愛媛
CATV
動画



▲消防団等の的確な誘導により避難を完了させた地域住民の車両

愛南町消防団内海方面隊第2分団平瀨支部が、平瀨地区自主防災会と協力し津波災害を想定した夜間の車両避難訓練を実施しました。

災害発生時において原則は徒歩による避難ですが、高齢化が進む平瀨地区では誰一人取り残さないためには車両避難の想定も不可欠と考え、地域の特性に合わせた訓練を実施しました。当日は平瀨自主防災会、消防団平瀨支部が主体となり、夜間の視界が悪い中、42台の車両を安全に誘導。参加した地域住民81人が、実際の避難ルートと駐車手順を確認しました。

2/19 地震だ!津波だ!すぐ避難!!

愛南町船越湾地域 夜間津波避難訓練実施



愛媛
CATV
動画



▲懐中電灯の明かりを頼りに避難場所へ急ぐ様子

越田、弓立、小浦、船越、久家、下久家の6地区で、夜間津波避難訓練が行われました。

この訓練は、地域が主体となり、県、大学、町防災対策課などの協力のもと、6地区合計で約200人の住民が参加しました。訓練は、19時に屋外スピーカー等を利用して地元区長が避難を呼びかけ、住民たちが避難を開始、各地区の津波一時避難場所に避難しました。その後、西海公民館で役員や訓練参加者による振り返り会が開催され、愛媛大学の二神透准教授から、「あらかじめ必要なものを高台の備蓄倉庫に入れておくことや避難の際にヘルメットがあるといい」などと講評がありました。